

翔!



▲跳ぶ高久さん

ふくしまのモーグリスト新聞

モーグルとは

フリースタイルスキーの1種目。ターン、エア(ジャンプ)、スピードの3要素の合計100点で順位を競う。長野オリンピックで里谷選手が金メダルを取り、日本でも知られるようになった。

めざせ!金メダリスト

「チームリステル」のモーグル夏練習

「ホテルリステル猪苗代は猪苗代湖を一望できるリゾートホテルである。猛暑の中、プールをたくさんの人々が利用していた。その裏でモーグルの練習をする2人の選手を取材した。7月31日、チームリステル所属の選手、高久佳佑さん(17)、宮本珠里さん(17)の2選手は、夏の練習として、ウォータージャンプ、トランポリンに取り組んでいる。ウォータージャンプとは、スキー用具を身に着け、ジャンプ台を滑り、プールに着地する練習法である。彼らは、将来のオリンピックや国際大会で金メダルを取ることを目標としている。彼らの挑戦は続く。(佐藤・横山・写真担当鈴木)

上村選手にあこがれて

練習を終えた2人に話を聞いた。宮本さんは茨城県東海村在住。茨城県はほとんど雪が降らない。どうしてモーグルを始めたのか? 「6歳の時、母親が偶然につけたテレビでモーグルの上村愛子選手の活躍を見ました。感動を始めたんです」



▲練習中の高久佳佑さん(左)宮本珠里さん(右) ウォータージャンプを1日30~50本繰り返す



①ジャンプ台は約5mの高さ



②ジャンプ台に乗る。緊張感が伝わる



③急角度の踏切台から空中の回転へ



④複雑な動きで1080度回転している



⑤プールへ。大きな音としぶきがあがる



⑥スキー板を付けて泳ぐにはコツが必要

練習を 実況中継

1080度回転!

ジャンプ台はプラスチックの「ブラシ」できている。滑りやすいように水をかけ、スキー板の裏にせつけんをつける。約5m以上からシューッと滑る。踏み切った後、空中でタテ回転1度、ひ

ねり2度で360度を3度、計1080度回転する。そして、水の中に落ちる。プールの水深は3m。底にぶつからないためだ。大きな水しぶきがあがる。スキー板をつけて

前には、トランポリン練習で感覚をつかむ。「大切なのは体の大きさではなく体幹の強さです。こわいと思う時は、絶対自分にはできると言い聞かせて跳ぶんです」

真夏のリゾートホテルの片隅で練習を繰り返す姿が印象的だった。(中山)

目標は世界の舞台

高久さんはホテルリステルのゲレンデで行われた「東京都大会」で優勝。宮本さんは、「ジュニアオリンピック」で3位と

は大きいです」(神谷)という素晴らしい成績を残している。2人とも今後の目標として「国際大会での活躍」と言う。2022年、2026年の冬季オリンピック出場も狙う。

宮本さんは取材した日の翌日に、約1カ月のオーストラリア遠征に出かける。雪の上での練習のためだ。出発直前に私たちに取材に応じてくれた。高久さんは受験勉強に取り組みという。コーチの新井まゆみさんは、「2人とも優秀で勉強も一生懸命です」



私たちが作りました。

この新聞の編集にたずさわった5班のメンバー。後列右から佐藤響(若松三中2年)、神谷菜月(四倉小6年)、横山康穂(郡山ザベリオ小6年) 前列右から中山寿々美(猪苗代小5年)、鈴木元大(赤井小6年)